

報道関係 各位

広島経済大学

広 報 課

自作「低学年用副読本（クメール語版）」を活用し学生がカンボジアで授業！

～現地の小学校で日本の戦後復興プロセスを伝えます～

広島経済大学（学長 前川 功一）興動館プロジェクト^{（注1）}の一つである「カンボジア国際交流プロジェクト」^{（注2）}は、下記の日程でカンボジアを訪問し、新たに自作した「低学年用副読本（クメール語版）」を用いて学生が現地の小学校で授業を行います。

これまで現地で「副読本」を活用した授業を繰り返し行ってきた結果、現地の低学年の理解度が低いことが分かりました。この本には、これまでの教育、経済、産業、生活といった各分野だけでなく、衛生分野を追加しました。これは子どもを取り巻く衛生環境が整備されていなければ安心して学校に通えないと考えたためです。そのため、平成 26 年 6 月より「低学年用副読本」の作成に取り組み、平成 27 年 2 月に日本語版、そしてこの度クメール語版が完成の運びとなりました。

つきましては以下のとおりお知らせしますので、ぜひ取材していただきますようよろしくお願いいたします。

^{（注1）}「国際交流」「社会貢献」「地域活性」「経済活動」などに関わるプロジェクト活動の、準備・実行はもちろん、企画、交渉、予算管理、報告・発表などの全般について、学生が主体的に取り組んでいる。多様な人間とともに何かを達成する過程の中で、実社会で必要な人間力を養い、「ゼロから立ち上げる」興動人[※]として活躍する人材を育成するのが目的。

[※]興動人とは…既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間と協働して何かを成し遂げることのできる力を備えた人材。

^{（注2）}ボル・ポト派の大量虐殺により、多くの教員、知識人を失ったカンボジア王国では、現在でも教員や教科書などの不足といった問題を抱えている。こういった教育問題に着目し、戦後の日本、広島の復興のプロセスを記した副読本を制作し、現地で配付することで、カンボジアの未来を担う子ども達に夢や希望を持ってもらい、広島・日本の過去を真似るのではなく、自分たちなりの復興の過程、未来のカンボジアの姿を考えてもらうため、活動を行っている。

記

【日 程】 平成 29 年 3 月 2 日（木）から平成 29 年 3 月 13 日（月）

【渡航メンバー】 本学「カンボジア国際交流プロジェクト」 学生 20 人

以 上

※お問い合わせ、取材のご用向きは事前に以下までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

（記事の内容について）広島経済大学 興動館^{こうどうかん}スタッフ 電話 082-832-5010

（取材の依頼について）広島経済大学 広報課 平田・山本・住本・藤永 電話 082-871-1313